

《国語科》

「話すこと・聞くこと」の力を育てる学習指導の工夫

～インタビューの学習を通して～

那覇市立与儀小学校教諭 糸満 眞紀子

I テーマ設定の理由

現代社会は、人と人の日常生活におけるコミュニケーションの欠如、人間関係の希薄化から、様々な社会問題が起きていると考えられる。人と人とが社会的な関わりをもち、自分の言葉で思いや願いを適切に表現したり、相手の思いや考えを正確に理解することはきわめて重要である。

国語科では互いの立場や考えを尊重し、言葉で伝え合う能力を育成することに重点を置いている。学習指導要領の目標では、伝え合う力を高めることを位置付け、日常生活に必要な言語能力の育成を重視している。内容では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」において、言葉の力を培う具体的な言語活動が示されている。ことに、「話すこと・聞くこと」の音声言語の能力は、教室での学び合いを成立させるための中核の力となると考える。

自分自身の授業を振り返ると、「話すこと・聞くこと」の領域では、「スピーチ」「ポスターセッション」「討論会」「パネルディスカッション」など、様々な言語活動を実践してきた。その際、話すことの指導が重視され、子ども達の学習の様子からも話すことに意識が集中していたといえる。また、本学級児童への事前のアンケートを見ると、「話を聞くときに気を付けていることは？」の問いに対し、“姿勢良く話し手を見て聞く”や“おしゃべりをしないで静かに聞く”など情意面や態度面を意識して話を聞いていることが伺える。しかし、話の要点をとらえて正確に聞いたり、話し手の意図を考えながら聞くなど、積極的に思考を働かせながら聞く力はまだ弱いと感じる。これまで、個々の児童について、どのような聞き取る力が習得されているのか、十分には把握していなかった。それが、話すことの活動にも大きく影響しているのではないかと考える。授業中の発表や話し合い活動においても、一部の決まった児童が自分の考えや意見を述べることが多い。話すことと聞くこととは、相互補完的な活動であり、きちんと聞けないということが、話すことにも影響を与えていると考えられる。

そこで、本研究では、インタビューという自分の知りたい情報を収集する活動を通して、より深く理解しようという意識を働かせて聞いたり、必要な情報を落とさずに相手の意図を考えながら聞いたりするなど、思考を働かせながら積極的に聞く力を育成したい。そのために、今、習得できている聞く力、これから伸ばしたい聞く力は何かを、聞き取りの評価テストを通して客観的にとらえたい。それを踏まえて評価し指導していくことが、聞く力を育てるための手立ての一つとなるのではないかと考える。また、話し手からの言葉を受け、疑問があれば問い返したり、答えからつながって詳しく関連した質問をするなど、話すこととの一体的な指導を進めていきたいと考える。さらに、インタビューを1年先輩である6年生に行うことで、ていねいな言葉を使って適切に話す力を育てたいと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

「話すこと・聞くこと」の力を育てるために、インタビューの学習において、意欲的に取り組めるような単元の設定や、聞き取り方の学習を工夫し、話すこととの一体的な指導を研究する。

III 研究仮説

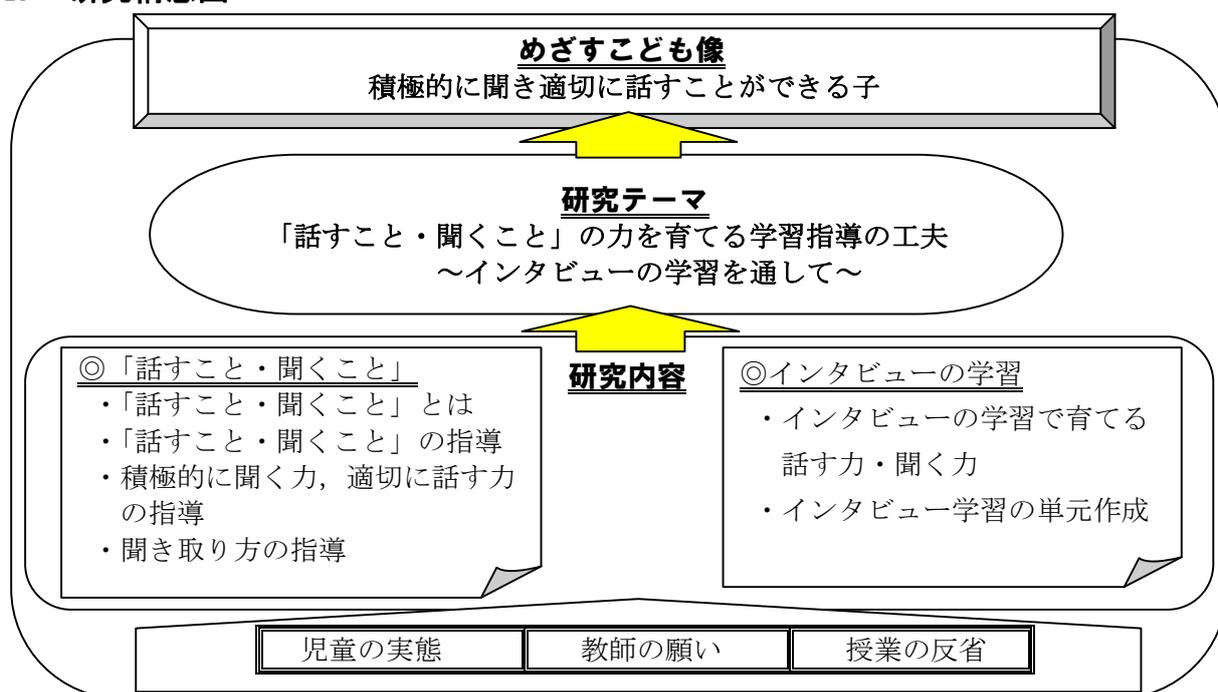
1 基本仮説

インタビューの学習において、学ぶ目的や内容を明確にし、聞き取り方の指導を工夫すれば、「積極的に聞く力」や、「適切に話す力」が育つであろう。

2 作業仮説

- (1) インタビューの学習において、委員会活動のことを6年生に直接尋ねたり、インタビューの仕方やマナーを考えさせることで、相手の話を共感的に聞いたり、さらに関連した質問をしたりするなど、適切に話すことができるであろう。
- (2) インタビューの学習において、自分の聞く力を把握し、思考を働かせた聞き方や聞き取りメモの取り方を学習することで、話の細部を落とさずに聞いたり、相手の意図を考えながら聞き取ることができるであろう。

IV 研究構想図



V 研究内容と方法

1 「話すこと・聞くこと」について

- (1) 「話すこと・聞くこと」とは

言語生活において、話すことと聞くことは双方向に作用しあう音声コミュニケーションの手段である。学習指導要領の「話すこと・聞くこと」の領域では、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することに重点が置かれている。

高学年になると、「話すこと・聞くこと」の活動もその対象の広がりとともに多様なものとなり、生きて働く国語の力として、それを身につけさせることは重要であるとする。表1は『「伝え合う力」を育てる指導細案』（瀬川榮志監修 2000）で示された、第5・6学年の「伝え合う能力」の実態と発達の系統表から抜粋・修正しまとめたものである。

表1 「伝え合う能力」の実態と発達の系統表（一部抜粋・修正まとめ）

【5年生でめざす「伝え合う能力」】	
〈話すこと〉	◎相手や状況に応じて適切な言葉遣いで、伝える目的をはっきりさせわかりやすく話そうとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・事実と意見をはっきり区別して話す。 ・伝えたい話の中心や、理由・根拠をはっきりさせ、組み立てを考えて話す。 ・必要に応じて丁寧な言葉遣いで話す。
〈聞くこと〉	◎話の内容を正確に聞き、必要に応じて質問したり詳しく聞き直したりしようとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・聞く必要感を持ち、細かいことまで正確に聞こうとする。 ・分からないことや疑問を質問する。 ・詳しく聞きたいことを進んで聞き直す。

(2) 「話すこと・聞くこと」の指導について

話すことや聞くことは日常的なものであり、生活全般を通して育成されるものである。家庭生活はもちろん、常日頃から、言語生活者としての意識をもち、その環境を整えていく必要がある。日常生活のあらゆる場面で、話すことや聞くことの指導をする機会を得るが、その意識をもっていないと見過ごされ、指導が行き届かないままその機会を逃してしまうことになる。

学校生活においては、国語の授業に限らず、話す力、聞く力の必要性を実感する。その中で、繰り返し継続的に指導されることが大切であり、そのために、国語の授業だけでなく、他の教科や領域の学習の時間、朝の活動の時間などで、児童が主体的に楽しく、多様な活動ができるように工夫することが必要である。

(3) 積極的に聞く力、適切に話す力の指導について

『国語教育指導用語辞典』（2004）において村松賢一は、「聞くこととは、発話の文字どおりの意味を談話の流れや場面の目的などに照合して、文脈上の意味を生成する能動的な作業である。つまり、人は耳より頭で聞いていることになる。」と述べている。聞くという行為が目で見るとその働きを認識することが難しいため、外から見て計りやすい態度的な面（姿勢を正して、おしゃべりをしないなどで）の指導に偏りがちになると考えられる。

そこで、一人ひとりの児童に、聞くことを主体的にとらせ、話し手に働きかけるような「積極的に聞く力」を育てたい。そうすることにより、受動的に聞くだけでなく、思考しながら聞き、さらには、再構築して発信者となりうると考える。

また、適切に話すためには、児童一人ひとりが目的や意図をもって、どのように話したら相手に伝わるかを考えて話すことが大切である。そのためには、当然、事前の準備が必要となる。誰に話すのか（相手意識）、何のために話すのか（目的意識）、何をどのように話すのか（方法意識）などの言語意識を明確にし、言語活動の形式的なとらえに偏らず、相手や場に応じて話せるように指導していきたい。

(4) 聞き取り方の指導について

聞き取りとは、聞いて理解することである。話し手との会話を続けるためには、話をよ

り正確に、細部を落とさずに、意図を理解しながらなど多くの点に気を付けながら聞き取る必要がある。聞き取り方の学習の始めに、個々の児童の聞き取る力を把握するため、『聞く力の評価と指導』（高橋俊三・声とことばの会著 2007）による聞き取りの評価テストを実施した。このテストは、単に、評価するためだけでなく、聞き取り方の学習の教材として活用した。評価テストの観点は、表2の通りである。

児童の聞き取り方を踏まえた上で、表3のような聞き取り方の指導が

表2 評価テストの聞き取りの観点

<ul style="list-style-type: none"> ・話し手がどんな意図をもって聞き手に話しているか聞き取る。 ・話し手が自分の伝えたいことをどんな具体例をあげて話しているか聞き取る。 ・中心点となる変更事項・付加事項とを判別して聞き取る。 ・間接的な表現から必要な事柄を判断して聞き取る。
--

必要だと考える。聞き取りメモの指導は、様々な学習活動において、意図的にメモを取らせるなど習慣として身に付けられるように指導していく必要がある。

表3 聞き取り方の指導

聞かせ方 <ul style="list-style-type: none"> ・聞く視点をもたせる。 ・絞り込んだ視点を示して聞かせる。 ・何を聞くべきか目的意識を明確にする。 	相手意識をもった聞き方 <ul style="list-style-type: none"> ・うなずき、相づちをうちながら聞く。 ・同意する言葉をかけながら聞く。 ・疑問点を聞き直す。
聞き取りメモの取り方 <ul style="list-style-type: none"> ・単語メモ・要約メモ（話の内容をとらえて、重要な語句や中心文をメモする）。 ・略語、数字、記号を使ったメモ（簡潔性・速記性が高く、最後まで効率よくメモが取れる）。 	

2 インタビューの学習について

(1) インタビューの学習で育てる話す力、聞く力について

『国語教育指導用語辞典』（2004）において村松賢一は、「インタビューとは、目的をもって相手からまとまった話を引き出す言語活動である。インタビューは、情報収集能力や相手の気持ちを想像し尊重する態度などのほか、特に、聴いて訊く力を総合的に育成しうる点で優れた言語活動といえよう。」と述べている。インタビューは、インタビューをする者とインタビューを受ける者との一対一を基本単位とする対話の一種である。その役割が明確化されているため、聞き手が話を引き出して聞き取ることに集中できる。また、インタビューをする者は、質問に対する答えを受けて問い返したり、新たな質問をするなど、受けて返す力を育てることができる。尋ねたいことを聞いたり、相手の話を聞いてさらに質問をしたりするという、聞き手であり話し手にもなる活動である。まさに、話す力と聞く力を一体的に指導できる学習活動であると考えられる。

今回の学習では、インタビューの質問を《中心質問》と《つながり質問》として表4のように定義し学習を進めた。一つのことについてできるだけ詳しく聞くために、相手の話を受けてさらにつながり質問をする。そうすることで深まったやりとりとなり、一問一答のインタビューとは違い、より話す力、聞く力を育てる学習にしていきたい。

表4 中心質問とつながり質問

《中心質問》

- ・インタビューで聞きたい中心となる質問
- ・あらかじめ考えておく質問

《つながり質問》

- ・受けた答えに関連した質問
- ・よく分からない内容を聞き返す質問
- ・不明な点を問い返す質問
- ・さらに詳しく関連した質問

(2) インタビュー学習の単元作成について

図1は『インタビューで委員会をくわしく知ろう!』の単元構成図である。単元を作成する際、次の点に留意した。

- ①目的意識，内容意識，方法意識などの言語意識をもたせることで，学習の動機付けを高め，意欲的な学びを継続させることができるように工夫する。
- ②メモの必要性や学級独自のインタビューポイントを考えさせたり，実際に6年生にインタビューをするという活動を通して，相手の反応や答えに応じてさらに質問ができるように指導を工夫する。
- ③相手意識を高め，双方が気持ちよく進められるよう，マナーの面（あいさつ，うなずき，相づち，言葉遣いなど）の指導も併せて行う。

このように，単元を通して，児童が主体的に考え学習を進めていけるように工夫する。

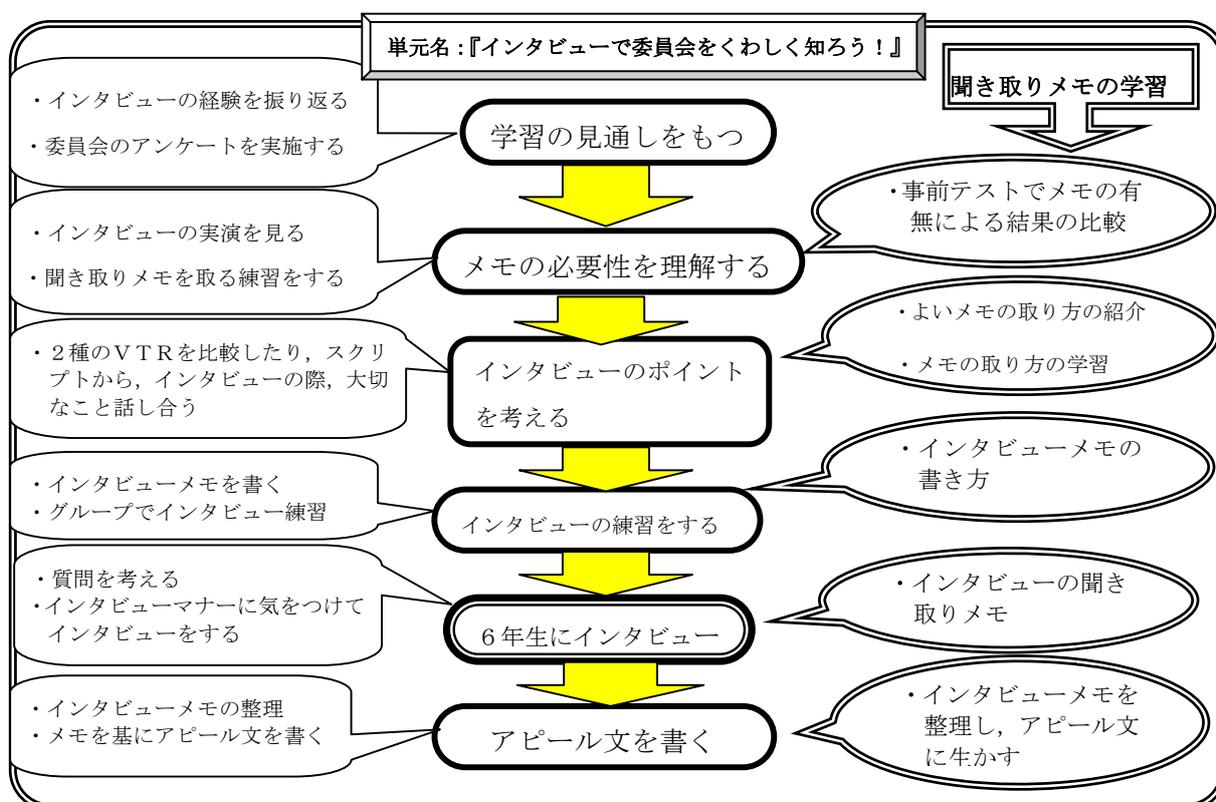


図1 単元構成図

VI 授業実践

1 単元名 『インタビューで委員会をくわしく知ろう!』

2 単元目標

関心・意欲・態度	委員会について尋ねたいという思いをもち，相手や目的にあった内容で質問を考え，インタビューの仕方や気を付けることを考えようとする。
話すこと・聞くこと	相手に分かりやすい話し方で尋ねたり，相手の答えや反応に応じて質問を広げて聞くことができる。
書くこと	知りたいことを明確に聞くためにインタビューメモを書いたり，得た情報をメモを活用して発信することができる。(アピール文)
言語事項	相手や場面に応じて，ていねいな言葉を使って話すことができる。

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、6年生に委員会についてインタビューをし、知り得た情報を委員会を選択する際の材料にしたり、他のクラスへ発信する学習として設定する。単元を通して「話すこと・聞くこと」の指導内容に重点を置き、インタビューという学習活動において聞き手であり話し手になることから、話すことと聞くことの一体的な指導を進めていきたい。

また、より良いインタビューをするためには、しっかり聞くことが重要であることを確かめ、インタビューを行う前に、聞き取り方とメモの取り方を学習する。

なお、インタビューに答える側の6年生については、インタビューに答えるにはどんなことに気を付ければいいのか、どのように話せば相手に伝わるかなど、「話すこと・聞くこと」の学習として、本時を含めて3時間の授業を実施する。

(2) 児童観

学習前に実施した話すこと・聞くことに関するアンケートでは、8割以上の子が“相手によく分かるように話したい”という願いをもっている。また、聞くことについては、“しゃべらずに静かにして”“姿勢を良くして相手を見て”など、聞く態度、相手への配慮などに気を付けていると答えた児童が20名であった(32名中)。しかし、児童の学習の様子を振り返ると、主体的に発表して互いの考えを深め合ったり、しっかり聞き取ろうと思考を働かせて聞く力は、まだ十分とはいえない。このような児童の実態からも、意欲的に適切に話す力や、相手の意図を考えながら聞いたり、自分に必要な情報を落とさないように聞くなど、積極的に聞く力を育てたい。

(3) 指導観

本単元では目標達成のために、次の5点について留意して指導したい。

- ①5年生が、これから6年生より引き継ぐ委員会活動について詳しく知るといふ、相手意識や目的意識を明確にすることで、インタビューの学習に対する関心や意欲を高めたい。
- ②学習計画を立て見通しをもたせる際、単元名や収集した情報のまとめ方を児童に考えさせることで、より主体的に学習させたい。
- ③インタビューの良い例悪い例のビデオを作成し、視聴して比較させたり、教材ビデオの SCRIPT を基に、インタビューの際に気をつけることを話し合う。話し合った内容を学級独自のインタビューの留意点として掲げ、インタビューの場面で活用していきたい。
- ④インタビューをする前に中心質問を考えさせ、その答えを予想して関連質問も考えさせたい。それにより、一問一答の機械的なインタビューにならないよう受容的に聞き、さらに深めた質問や関連した質問ができるよう指導したい。
- ⑤収集した情報を友達や他の学級へ提供するために、インタビューの際、聞き取りメモを正確に取り、取ったメモを整理して有効に活用できるよう指導したい。

4 評価計画

	関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	言語事項
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会について尋ねたいという思いをもち、相手や目的にあった内容で質問を考えようとしている。 ・インタビューに興味をもち、大事なことや気を付けることを考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に分かりやすい話し方で尋ねたり、相手の答えや反応に応じて質問を広げて聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明確に聞くことができるように、インタビューメモを書いたり、得た情報をメモを活用して発信することができる。(アピール文) 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に応じて、インタビューの際に、ていねいな言葉を使うことができる。

5 指導計画（9時間）

時	◎目標	○学習内容	☆評価
1	◎単元の見通しをもち、インタビューに関心をもつ。 ・○委員会のアンケートを実施する。 ・○学習内容を確認し単元名を考える。		ワークシート・観察
	☆委員会について尋ねたいという思いをもつことができる。【関・意・態】 ☆話し合いに積極的に参加し、単元名を考えている。【関・意・態】		
2	◎メモの必要性を知り、インタビューに適したメモが書ける。 ・○インタビューの実演を見て話し合い、メモの必要性を確認する。 ・○インタビューの聞き取りメモの練習をする。		メモノート
	☆インタビューの際、メモが必要であることを知り適したメモが書ける。【書くこと】		
3	◎インタビューをするときに大切なこと（インタビューのポイント）を考える。 ・○VTRを比較し、インタビューの際に大切なこと話し合う。 ・○VTRの SCRIPT を基に、「つながり質問」の大切さを確認する。		ワークシート・観察
	☆よいインタビューにするために、どんなことが大切かを考えることができる。【関・意・態】		
4	◎取材メモの書き方が分かり、インタビューポイントに気をつけて練習できる。 ・○インタビューの取材メモを書く。 ・○グループでインタビューの練習をする。		ワークシート・観察
	☆尋ねたいことを明確にした取材メモが書ける。【書くこと】 ☆インタビューのポイントに気を付けながらインタビューの練習ができる。【話す・聞く】		
5	◎インタビューの練習を振り返り、良かった点、改善点を見つけることができる。 ・○前時のインタビューを振り返り、良かった点、改善点を話し合う。 ・○委員会ごとにグループに分かれ、どんな質問をするか話し合う。		ワークシート・観察
	☆アドバイスや自己の振り返りから、良かった点、改善点を見つけることができる。【話す・聞く】 ☆アピール文を書くために、どんな質問をしたらよいか考えることができる。【話す・聞く】		
6	◎役割を交代しながらインタビューの練習ができる。 ・○グループで役割を決めてインタビューの練習をする。		ワークシート・観察
	☆インタビューのポイントに気を付けてインタビューの練習ができる。【話す・聞く】 ☆友達のインタビューについてアドバイスできる。【話す・聞く】		
7	◎これまでの練習をいかしてインタビューをすることができる。 ・○6年生に委員会についてインタビューをする。		メモノート・観察
8	☆インタビューのポイントに気を付けてインタビューをすることができる。【話す・聞く】		
9	◎インタビューで得た情報から、分かりやすくアピール文を書くことができる。 ・○メモを基にアピール文を書く。		アピール文
	☆取材した情報を工夫してアピール文を書くことができる。【書くこと】		

6 本時の学習（8／9時）

(1) 本時の目標

- ・目的意識をはっきりともち、これまでの学習やインタビューのポイント《5の3流オリジナルインタビューマナー》を活用してインタビューができる。
- ・相手が答えやすいように質問したり、相手の反応に応じてさらに質問することができる。

(2) 授業仮説

委員会活動について直接6年生にインタビューをする際に、よりよいインタビューの仕方を想起し、《5の3流オリジナルインタビューマナー》を生かすことで、相手が答えやすいように質問したり、相手の答えや反応に応じてさらにつながり質問をすることができるであろう。

(3) 展開

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
導 入	1. 本時のめあてを確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生, 6年生それぞれのめあてを確認する。 ・場を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューに関心を持ち, 意欲的に取り組もうとしている。 《関・意・態》(観察)
展 開	2. 委員会ごとにグループに分かれ1回目のインタビューをする。 3. 全員が集まり1回目の振り返りをし, 話し合う。 4. 委員会ごとに分かれ, 2回目のインタビューをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューをする児童, メモをとる児童がそれぞれ分担してインタビューを進める。 ・良かった点や改善点を出し合い2回目に生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に分かりやすい話し方で質問したり, 相手の反応や答えに応じてつながり質問ができる。《話す・聞く》(観察) ・大事な点を落とさないように聞き取り, インタビューメモを書くことができる。《書く》(メモノート) ・インタビューを振り返り, 良かった点, 改善したほうがよい点に気付くことができる。《話す・聞く》(発表・観察)
ま と め	5. 全員が集まり, 今日の学習を振り返ってワークシートを書き話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の言葉を受けてつながり質問ができたか。 ・アピール文を書くために情報が集められたか。 ・6年生からも, インタビューを受けての感想を発表してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューの学習を振り返り, 自分なりの感想をもつことができる。 《関・意・態》(観察・ワークシート)

VII 結果と考察

【検証1】

インタビューの学習において, 委員会活動のことを6年生に直接尋ねたり, インタビューの仕方やマナーを考えさせることで, 相手の話を共感的に聞いたり, さらに関連した質問をしたりするなど, 適切に話すことができるであろう。

【方法】

ワークシート, インタビューの様子, 学習の振り返りなどから検証し考察する。

【結果1】

図2は, インタビューの仕方やマナーを考えるための, 教材用VTRスクリプトのワークシートである。VTRの内容は, クラスで昔調べをして発表するという学習で, あるグループが地域の方に昔の遊びについてインタビューをするというものである。

図3は, 図2のワークシートに書いた後, それを基に全体で確認し合い, 学級独自のインタビューの仕方として決めたものである。

【考察1】

図2を見てみると, 児童は, 言葉遣いや, 表情, 態度について, “きちんとあいさつをしている” “お礼を言っている” など礼儀の面や, “うなずきや相づち, 驚きの表情を表している” と相手意識をもったインタビューの態度などに気付いていることが分かる。また, インタビューの仕方として, “インタビューの目的を言っている” “答えを聞いて広げて質問している” “同意や感想を述べている” など, 相手の答えをしっかりとめて, 関連した質問につなげていることにも気付いていることが分かる。

図3は, その後ワークシートを基に話し合い, インタビューのポイントとしてまとめ, 《5の3流オリジナルインタビューマナー》とネーミングして教室に掲示したものである。児童は練習や本番のインタビューの際に, これを参考にしながらインタビューを進めていた。

インタビューの仕方について、教師が教え込むのではなく、VTRや教師の実演によるインタビュー例の比較をすることで、児童自ら考え、学級独自のインタビューの大事なポイントとしてまとめた。それを、《5の3流オリジナルインタビューマナー》とし、自分達で考えて決めたことで愛着が深まり、その後の学習を進めていく中でもよく活用していた。また、全体で話し合う際に、インタビューの仕方やマナーを見つけて提案してくれた児童の名前を掲示用の短冊に書き(図3参照)、児童の発言を認めることでさらに意欲的な学習ができたと考える。



図2 「インタビューをチェックしてみよう」(VTRスクリプト)

VTRのスクリプトから気づいたことをインタビューの仕方としてまとめる

教室掲示《5の3流オリジナルインタビューマナー》

五の三流
オリジナル
インタビューマナー

質問の仕方・内容

インタビューの目的を話す

分からないことは質問する

相手の話を受けて広げた質問をする
(つながり質問)

自分の感想もべながら質問する
【表情・態度】

- ・きちんとあいさつをする
- ・明るい表情で話す
- ・あいづちをうつ
- ・反応を示す(うなずき・おどろき・感心)
- ・相手の目を見て話を聞く
- ・はきはきといねいな言葉づかい
- ・周りの人がメモを取る

提案した児童の名前

図3 《5の3流オリジナルインタビューマナー》を決める

【結果 2】

図 4 は、運営委員会の 6 年生に 5 年生がインタビューをした内容の一部である。

つながり質問
(答えを受けて質問)

(運営委員会へのインタビュー)【Q・5年生の質問, A・6年生の答え】

Q1: 大きな行事はどんなものがありますか?
A1: 運動会や学芸会があります。

Q2: 学芸会では具体的にどんなことをするんですか?
A2: テーマを決めたり, 垂れ幕を作ったりします。

Q3: では, テーマを決めるときは, 昼休みに集まって決めるんですか?
A3: 昼休みに代表委員会で話し合っで決めます。

Q4:他にどんな事をするんですか?
A4: 朝 8 時までに来て, あいさつ運動をします。

Q5: あいさつはどこでやるんですか?
A5: 児童玄関の前や校門のそばでやります。

Q6: 場所によってやる日にちは決まってるんですか?

図 4 G 児のインタビューの内容

表 5 は、授業後に行った児童の学習の振り返りである。A 児, B 児, C 児のように、つながり質問について書いた児童が 14 名いた。また、D 児, E 児, F 児のように、うなずいたり相づちをうつ、言葉遣いなどについての振り返りを書いた児童が 10 名であった。

【考察 2】

図 4 を見てみると、6 年生が「(大きな行事には) 運動会や学芸会があります。」(A1) と答えたことを受けて、5 年生が「学芸会では具体的にどんなことをするんですか?」(Q2) と、さらに詳しく関連したつながり質問をしていることが分かる。また、「テーマを決めたり, 垂れ幕を作ったりします。」(A2) という答えを受けて、「では, テーマを決めるときは, 昼休みに集まって決めるんですか?」(Q3) と、自分の知っていることも話しに織り交ぜながら質問をつなげている。

インタビューの流れを追って見ると、中心となる仕事内容についての質問から、その答えを受けてさらに関連した質問をしていることが分かる。これは、細部を落とさないように相手の話を共感的に聞いたことで、聞きたいことを適切に尋ねることにつながられたと考える。

表 5 の学習の振り返りを見てみると、児童がどのような意識をもってインタビューを進めてきたかが分かる。インタビューの練習をする際、友達同士でどれだけつながり質問ができたか、お互いに評価しながら学習を進めていた。また、インタビューの練習後、内容を振り返りながら、「うなずいてくれたから答えやすかった」「もっと笑顔で」などのアドバイスも聞かれた。このような学習を繰り返すことで、自分達で決めたインタビューのポイントに気を付けながら、6 年生に委員会についてのインタビューをすることができた。

また、5 年生も後半となり、自分がどの委員会を希望しようかと興味も高まってくるこの時期に、現在の委員会の様子を直接尋ねるという学習を行うことで、児童が主体的に学習を進めることにつながったのではないだろうか。

このようなことから、児童が目的意識、相手意識をもち、主体的に学習を進めることで、思考を働かせながら積極的に聞いたり、聞きたいことを適切に尋ねることができたと考える。

Q. どんなことを頑張りましたか?(6年生へのインタビューのとき)	
(A児)	どんな質問をすればつながるか考えた。
(B児)	相手の話を受けてつながり質問ができていくか考えながらインタビューをした。
(C児)	答えを予想して次の質問を考えた。
(D児)	あいさつ, お礼, うなずき, あいづちに気をつけた。
(E児)	あいさつをしたり, ていねいな言葉づかいで話した。
(F児)	笑顔であいさつ, あいづちをうつ, 人の目を見て話すことに気を付けた。

【検証2】

インタビューの学習において、自分の聞く力を把握し、思考を働かせた聞き方や聞き取りメモの取り方を学習することで、話の細部を落とさずに聞いたり、相手の意図を考えながら聞き取ることができるであろう。

【方法】

聞き取りテスト、聞き取りメモ、アピール文から検証し考察する。

【結果】

図6のグラフは、学習前と学習後に実施した聞き取りテストの結果である。児童の聞く力を客観的に評価するために、『聞く力の評価と指導』（高橋俊三・声とことばの会著 2007）による聞き取りの評価テストを行った。

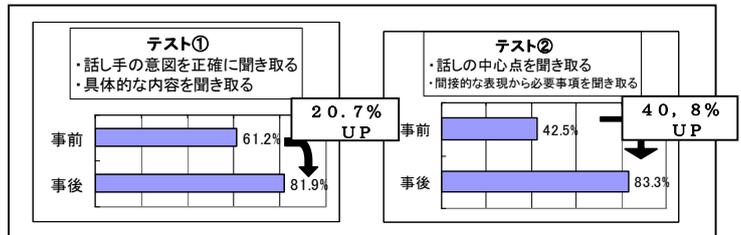


図6 聞き取りテストの結果

図7は、H児の事前テストの際のメモと、事後テストの際のメモの比較である。事後テストでは、学級の9割の児童が単語や略語のメモを取っていた。

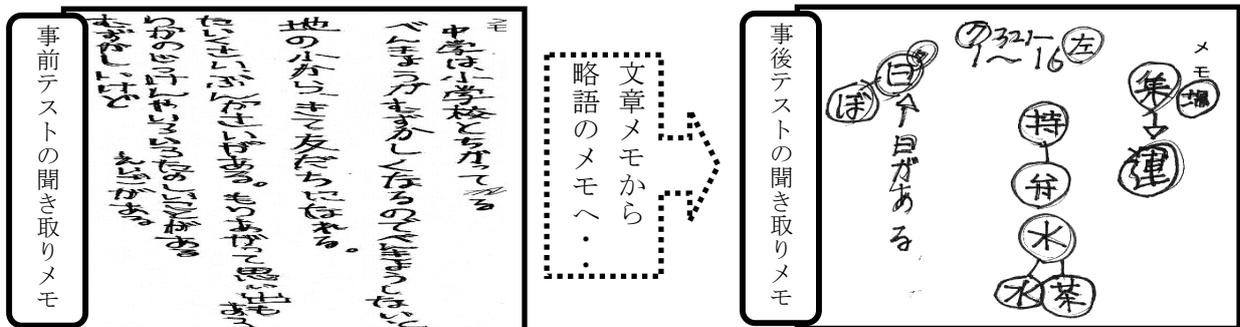


図7 H児のメモの比較

図8は、I児が体育委員会へのインタビュー後に書いたアピール文である

自慢できること	特に大変なこと	詳しい仕事内容
<p>と、みんなできるとは、一人ではできないことだそうです。</p> <p>何か聞いてみました。</p> <p>（じまんでできること）（じまんでできることは）</p> <p>（じまんでできること）（じまんでできることは）</p> <p>（じまんでできること）（じまんでできることは）</p> <p>（じまんでできること）（じまんでできることは）</p>	<p>体育委員会でも大変な事は、整理体操を作るのだそうです。あと一つは運動会準備が大変だそうです。</p> <p>（大変なこと）（体育委員会で特に大変な事は）</p> <p>（大変なこと）（体育委員会で特に大変な事は）</p> <p>（大変なこと）（体育委員会で特に大変な事は）</p> <p>（大変なこと）（体育委員会で特に大変な事は）</p>	<p>倉庫の中の物を全部出して掃除するそうです。</p> <p>時間がなくて、早く終わるようにするそうです。</p> <p>（大変なこと）（体育委員会で特に大変な事は）</p> <p>（大変なこと）（体育委員会で特に大変な事は）</p> <p>（大変なこと）（体育委員会で特に大変な事は）</p> <p>（大変なこと）（体育委員会で特に大変な事は）</p>

図8 I児のアピール文（体育委員会）

【考察】

事前の聞き取りテストを単に聞く力の評価の材料として実施するだけではなく、聞き取る力を高める学習材の一つとして活用した。授業前に実施した聞き取りテストについて解答をしながら、どのような聞き方や、メモの取り方をすればよいか学習した。そこで児童は、自

分の聞き方やメモの取り方の課題に気付いた。聞き方については、大事な点や、何を落とさずに聞けばいいのか、思考を働かせながら聞く必要性を学んだ。このような学習を通して、図6のようなテストの結果につながったと考える。

図7のように、事前テストの段階では、読み上げられた内容をそのまま書き写す文章のメモであったが、学習後は、内容を略語にしてメモを取っている。文章のメモは話の途中でメモしきれない内容もあり、最後まで十分に聞き取っているメモとはいえない。事後テストのメモはとても簡略化されているように見えるが、内容を最後まで聞き、大事な点がおさえられたメモとなっている。聞き取りメモについては、メモを取る学習の度に、簡潔で分かりやすく書けたメモを実物投影機で紹介し共有化することで、メモの取り方について学び合うことができた。このような学習を繰り返すことで、授業後の聞き取りテストでは、それぞれにメモの取り方で大きな変化があった。最後まで話をしっかり聞いて、メモが取れるよう速記性や簡潔性を意識した単語や略語のメモが多く見られた。聞き取り方の学習を重ねるごとに、細部をしっかり聞き取ろうと集中して問題に聞き入り、メモを取るようになった。

図8のアピール文を見てみると、仕事の内容を尋ねるだけでなく、大変なこと、自慢できることなど、心情面についても聞いていることが分かる。インタビューを続ける中で、相手の答えに関連づけたつながり質問をすることでより深い話に広がり、あらかじめ考えておいた中心質問だけでは知り得ない内容のインタビューになっている。

このようなことから、自分の聞く力を把握し、思考を働かせた聞き方や聞き取りメモの取り方を学習したことで、話の細部を落とさずに聞いたり、相手の意図を考えながら聞き取ることができたと考える。

VIII 成果と課題

1 成果

- (1) 「聞くこと」の学習に重点を置いて「話すこと」との一体的な指導をすることで、相手の話を受けて、自分の言葉で話をつなげていったり、不明な点を問い返す力がついてきた。
- (2) 聞き取りメモの学習を通して、メモの有用性を学び、自分なりの工夫したメモを取るようになった。
- (3) 明確な相手意識、目的意識をもたせることで、意欲的な学びを継続させ、インタビューを生かしたアピール文を書くことができた。

2 課題

- (1) 次の学習に生かすための自己評価や相互評価の方法を工夫し、自己の振り返りや学び合いを深めさせていきたい。
- (2) インタビューの学習以外にも、多様な場面やその目的に応じたメモの取り方について、さらに検討が必要である。

《主な参考文献及び引用文献》

「音声言語指導大事典」	高橋俊三編	明治図書	1999
『伝え合う力』を育てる指導細案	瀬川榮志監修	明治図書	2000
「聞く力の評価と指導」	高橋俊三・声とことばの会	明治図書	2007
「国語教育指導用語辞典」	田近洵一・井上尚美編	教育出版	2004